

# みゆきの里通信

2017 spring / Vol.34



特集

## 専門チームが オーダーメイドケアを目指す

～御幸病院LTAC心不全センター開設!～



## ニュース news

### みゆきの里 創立記念35周年式典

平成29年3月1日、すこやかホールにてみゆきの里創立記念35周年式典が開催されました。今回は35周年という節目の年ということもあり、富島会長からは創立記念にあたっての講話と共に、「みゆきの里新5カ年経営計画」についての説明が行われ、今後のみゆきの里が目指す姿が示されました。

また、式典では先日開催されたみゆきの里研究発表大会での優秀者表彰と、永年勤続者の表彰も併せて行われました。今回は勤続35年の職員5名を含む48名が表彰され、受賞者を代表し、勤続35年の西永直美さんより謝辞が述べられました。

その後、各施設長よりそれぞれの施設の経営計画が発表され、御幸病院・長尾名誉院長の音頭で乾杯が行われ、閉式となりました。

みゆきの里は皆様のお陰をもちまして、35周年を迎えることが出来ました。今後ご利用者とご家族、地域の皆様、連携先の方々に貢献できるよう、精進を重ねてまいります。みゆきの里と御幸病院を、今後とも宜しくお願い致します。



## 今後の行事予定 event schedule



5月20日  
みゆきの里35周年  
記念感謝の夕べ

◀写真は30周年記念  
感謝の夕べの様子です

## 担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1 診察室	午前	馬場	江頭	馬場	馬場	江頭	
	午後		熊本		江頭		
第2 診察室	午前	津出	馬場	金場	熊本	馬場	担当医
	午後	師岡	本田	高野	高野・有馬*	津出	
第3 診察室	午前	西上	西上	西上	西上		
	午後	馬場		和田山		肥後	
統合医療 センター	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		

※第2診察室 第1,3,5 木曜：高野 第2,4 木曜日：有馬となります。  
●統合医療センターについては御幸病院総合受付でお尋ねください  
●王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後(15:45～)

長尾名誉院長 鍼灸漢方・健康相談を担当します。  
馬場総院長 外科相談を含め種々の疾患の診療をいたします。  
西上院長 循環器専門外来を担当します。  
熊本院長補佐 神経内科を担当します。

川野リハビリテーション部長  
本田消化器・内科医長  
高野内科医長 内科を中心として、  
金場リハビリテーション医長 種々の診療を担当します。  
師岡循環器・内科医長  
津出医師  
有馬医師

肥後医師 循環器専門外来を担当します。

磯貝緩和ケア診療部長 緩和ケア病棟を担当します。  
緒方緩和ケア診療部・内科医長

江頭医師 アレルギー疾患・心療内科を担当します。

和田山医師 整形外科を担当します。

●緩和ケア入院相談 月～土 8:30～17:30 (随時)  
相談窓口：地域医療連携センター

～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～ 医療法人博光会 御幸病院



- 【診療科目】 内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科  
リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・神経内科  
麻酔科(ペインクリニック) [医師：岡崎止雄]
- 【診療受付時間】 平日 午前8時30分～午後5時  
土曜 午前8時30分～午後12時 ※但し急患は何時でも受け付けます。
- 【施設概要】 ●緩和ケア病棟：20床  
●一般病棟：30床 (うち地域包括ケア病床 10床)  
●回復期リハビリテーション病棟：60床  
●地域包括ケア病棟：29床  
●医療療養病床：47床  
●関連事業所：訪問看護ステーション「みゆきの里」御幸病院訪問介護事業所

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

発行/医療法人博光会 御幸病院 〒861-4172 熊本市南区御幸苗田6-7-40 OTEL:096-378-1166 OFAX:096-378-1762 ○メールアドレス info@miyukinosato.or.jp



みゆきの里 会長  
医療法人博光会 理事長

富島 三貴

## 新5カ年経営計画の策定にあたって

みゆきの里は昭和57年の御幸病院開設以来、平成29年3月1日をもって35周年を迎えました。

創設者である父 富島博は「保健・医療・福祉の有機的連携のもと 歳をとっても安心していきがいを持ち住み慣れた地域で暮らせるまちづくり」という大きな夢を描き、病院の建設からスタートし、順次、介護福祉施設を整備、現在のみゆきの里の礎を築いてくれました。

この構想はいわば今日の地域包括ケアシステムの原型とも言えるもので、これをさらに発展させ地域の健康づくりの拠点として「健康寿命の延伸と地域との共生・共創」を実現させたいと考えております。

そのため、節目となる35周年を契機に御幸病院の建替えも視野に入れた「みゆきの里 新5カ年経営計画」を策定いたしました。

この計画を推進していく上で重要な役割を果たすと期待されているのが4月1日に開設したLTAC心不全センターです。このセンターは長期にわたり専門的な治療を必要とする心不全の患者様を多職種からなる専門チームでケアをしていくというもので、日本初の試みです。

そのセンター長はこの4月から御幸病院の院長に就任いただいた西上和宏医師です。西上新院長は長年済生会熊本病院において循環器内科の専門医として活躍されており、御幸病院をこれまでの慢性期中心の医療から亜急性期から慢性期さらには在宅までを担える病院に変革していただけるものと思っております。

今後ともみゆきの里は地域の健康づくりの拠点として、その役割を果たすべく様々な取り組みを行ってまいります。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



特集

## 専門チームが オーダーメイドケアを目指す

～御幸病院LTAC心不全センター開設!～

P1 会長挨拶

P2 特集

P5 みゆきのひとヒト

P6 みゆきの広場

P7 担当医表／ニュース

特集 話し手：LTAC心不全センター

# 専門チームが オーダーメイドケアを目指す

～御幸病院LTAC心不全センター開設!～



LTAC心不全センター  
師長  
渡邊 真実



LTAC心不全センター  
看護師  
松原 久美子



臨床工学室長  
林 久美子



臨床工学技士  
森永 景子



御幸病院院長 兼  
LTAC心不全センター長  
西上 和宏



九州大学病院循環器内科  
診療講師  
医学研究員循環器内科学 助教  
肥後 太基



薬剤師  
矢野 浩太郎



管理栄養士  
井上 真弥



臨床検査技師  
市丸 優子



医療連携センター主任  
谷口 保代



理学療法士  
嶋村 法人



理学療法士  
岡村 剛志

## LTAC心不全センター 開設

平成29年4月1日、御幸病院はLTAC心不全センターを開設しました。

心不全の患者様を多職種からなる心不全ケア専門チームで診察・治療いたします。



### ～今なぜLTAC心不全なのか～

高齢化の進展により、循環器系疾患とりわけ心不全の患者様が増加しています。熊本県の医療需要予測において増加数及び伸率が最も高いと予測されているのが循環器系疾患の患者様です。

### ～患者様のお受け入れについて～

急性期病院入院後、いつでも患者様の転院を承ります。人工呼吸器やカテコラミン点滴等が必要な患者様もお受け入れいたします。  
※必要に応じて患者様をドクターカーでお迎えにまいります。

### ～医療機関との連携について～

御幸病院は高度専門医療機関とのアライアンス強化並びに診療所との連携を積極的に推進します。

患者様ご紹介の場合は  
当院地域医療連携センターまでご連絡ください。

御幸病院(代表) **096-378-1166**

この春、桜の開花とともにスタートを切ったばかりの『LTAC心不全センター』。開設から約2週間、早くも手応えを感じているという同センターの皆さんと、心不全治療のこれからについて語ってきました。

### 急性期と在宅復帰 中間で果たす役割

平成29年4月1日、『御幸病院』に新たな施設「LTAC心不全センター」が開設しました。「LTAC」とは、「Long-Term Acture Care」の頭文字を取ったもの。長期に亘って専門的な医療を行

うという同センターのあり方を示しています。「本来、心不全という病状はかなり長い期間に亘って関わる必要があるものです。しかし従来は、滞在日数が限られた急性期病院と、かかりつけの診療所が治療の中心。長期的かつ専門的な治療を行う機関が存在しませんでした。そこで両者の橋渡しを行い、よりスムーズな医療分担を行うことを目標として発足

したのが、当センターです」。そう語るの  
は、センター長であり、同時にこの春、当院の院長にも就任した西上和宏医師。さらに、循環器の専門家として九州大学医学研究院から招かれた肥後太基医師も、非常勤のアドバイザーとして同センターを後押しします。「心不全状態にある患者様は、入退院を繰り返されることも多々あります。急性期病院の一手手前、



養士&理学療法士、入院早期から介入し、円滑な医療福祉サービスの提供に取り組むソーシャルワーカーetc…多種多様な職能を持つスタッフが、同センターを支えています。23名のスタッフを率いる西上センター長及び肥後医師は「心不全という症状は、ワンポイントの投薬治療だけで改善できるものではありません。生活全体を見直し、家庭環境を含めて関わっていく専門チームの存在が重要」と話します。また、『みゆきの里』最大の強みは、医療、福祉を同時に提供できるといふ充実したバックグラウンドにあること。「患者様一人ひとりのゴールはどこにあるのか、チーム全体が真剣に考える。それは“いかにその人らしく生きていけるか”という問いと同義です。その人らしく食べ、動き、快適に過ごせる場所をつくるということ。ご本人やご家族の希望を

いわゆる“ゲートキーパー”として、再発防止をマネジメントする役割も求められているのではないのでしょうか」。

### 多職種の専門チームが強力にバックアップ

これまでにない視点から、心不全の治

療にあっている同センター。多職種のスタッフが専門性を生かしたチームを編成していることも、当院ならではの強みでしょう。チーム全体の方向性を決定する医師や、ベッドサイドで細やかな対応を行い、患者様やご家族の意思決定支援を担う看護師。食事や運動療法を通じて退院後の健やかな生活を目指す栄

できる限り叶え、ハッピーな人生をお手伝いすること。それは、医師の力だけでは到底不可能といえるでしょう」。

心不全の患者様には高齢の方が多く、独居や老老介護といった問題も山積み。在宅復帰も容易ではありません。そこで重要なのが、「どこにゴールを設定するのか」という意識です。退院後の生活拠点は自宅なのか？ 里内の施設なのか？ ご家族とも話し合いながら、患者様一人ひとりにとっての最善を模索します。

### 挑戦は始まったばかり 心不全の未来を拓く

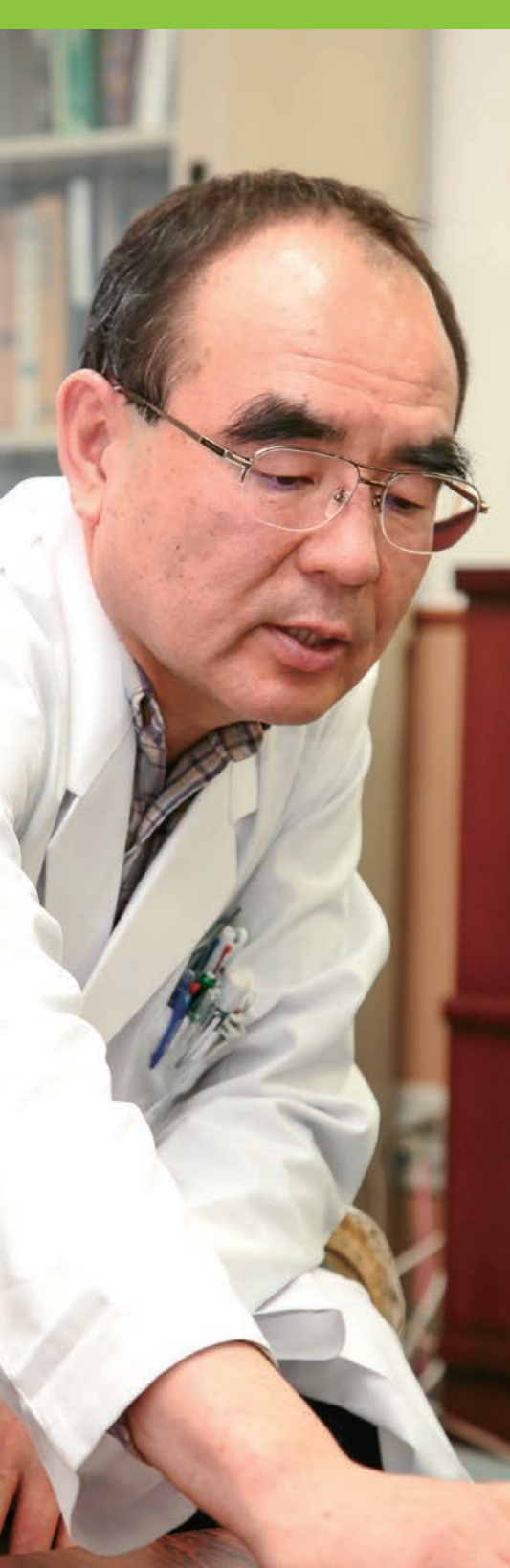
また、さまざまな病気のなかでも、特に数多くの医療機器が関わってくるのが心臓系疾患の特長のひとつ。心不全は重症化すると呼吸困難を引き起こすことが多

く、酸素療法が不可欠です。そういった機器を駆使して症状の改善を図るため、同センターには当院で初となる「臨床工学技士」が参加しています。新たに臨床工学室長に就任した工学技士の林久美子さんは、「LTACには多岐にわたる医療機器が使用されています。私たちの役割は、医師や看護師の皆さんが安心してこれらの機器を使用することができるようにサポートすることです。また、安全管理にも気を配っています」と説明します。また、患者様の状態を高い精度で観察する

ためにも、機器の果たす役割は大きいそうです。同じく検査に携わる臨床検査技師の市丸優子さんも、「従来は、検査室にいらっしゃる患者様と短時間の関わりし

か持てず、データの解析が主な業務でした。当センターに参加することによって、患者様をより身近に感じられるようになりましたし、数値以外の情報も採り入れながら、より質の高い検査結果を提供できるようになったと思います」と手応えを感じている様子。まだまだ走り出したばかりの『LTAC心不全センター』ですが、スタッフの意気込みは十分! 回復期、療養期の心不全治療に関して、全国の医療機関をリードしていく施設へと成長していくことが期待されています。





# みゆきのひとひと人

御幸病院 院長

## 西上 和宏 Kazuhiro Nishigami

### 急性期病院と診療所をつなぎ 地域を支える医療機関に

今年4月より『御幸病院』院長に就任。また、同時に発足した『LTAC心不全センター』のセンター長としても、循環器医療の強化に取り組んでいる西上医師。就任のご挨拶をかねて、自らの役割を語ります。

#### —就任おめでとうございます。

御幸病院について、どのような印象を抱かれましたか？

西上 昨年の9月から非常勤の外来医師としてお手伝いをするようになり、4月からは院長として病院の運営にも取り組むようになりました。以前は急性期の病院に勤めていましたので、やはり違いは随所で感じますね。一人ひとりの患者様との関わりが密だなと思いますし、地域の皆様からの信頼も感じます。また、医療から福祉までワンストップで行える施設を備えているというのは、全国的にも珍しいのではないのでしょうか。

#### —さらに新設の『LTAC心不全センター』も第一歩を踏み出しましたね。

西上 回復期や療養期の患者様にとって、心不全は非常に身近であり、再発を繰り返すやっかいな疾患でもあります。これまで心不全に関しては、急性期病院での治療後、かかりつけ診療所で診てもらう他に手段がなかったんです。その両者の中間をぐっと支える役割が果たせる病院があればいいなと、常々考えていま

した。このセンターがその役割を果たし、限られた入院日数の急性期病院では完了できなかった治療を、継続して行うことができるようなセンターを目指しています。

#### —多職種による専門チーム体制が、同センターの特長と伺いました。

西上 まだまだ私もチームに入ったばかりですが、多職種協働は当院をもっと的確に表すキーワードではないでしょうか。各職種のスタッフが、自分の専門分野のノウハウや知識、患者様の状態を密に共有することによって、入院中の治療のみならず、退院後のQOL向上にも役立つと考えています。

#### —今後の展望を教えてください。

西上 急性期病院と地域の診療所、その2点を結ぶ中継地点として病院の枠を超えた情報共有を行っていくつもりです。患者様の引き継ぎはもちろん、定期的に診療所を訪問して情報交換をするなど、顔の見える連携に力を入れていきたいですね。

【profile】  
西上 和宏 にしがみ かずひろ  
医療法人 博光会 御幸病院 院長

1960年8月24日生まれ 56歳  
熊本市中央区出身

1985年3月 熊本大学医学部卒業  
1985年4月 熊本大学医学部第一内科  
1988年4月 済生会熊本病院循環器科  
1998年4月 済生会熊本病院循環器科医長  
2005年4月 済生会熊本病院循環器科副部長  
2011年4月 済生会熊本病院集中治療室室長  
2017年4月 御幸病院院長兼  
LTAC心不全センター長

## 平成29年度 みゆきの里入社式

平成29年4月1日、すこやかホールにてみゆきの里の入社式が開催されました。今年度は医療法人博光会29名、社会福祉法人健成会4名、計33名の新入職員を迎えることが出来ました。

それぞれの辞令が交付された後、新入職員を代表し、御幸病院リハビリテーション部の理学療法士、吉永直樹さんが力強く謝辞を述べました。続けて富島会長より、創立35周年という節目の年にあたって、変革と飛躍の年とするために、新入職員の皆さんの力を貸してほしいとの訓示が述べられました。

また、御幸病院の西上院長をはじめ、富貴苑・ピオニーガーデンの積施設長、和楽の脇岡施設長など、新たに就任された施設長からも、新入職員に向けて一緒に頑張ろうとの挨拶がありました。



新入職員の皆さん、入職おめでとうございます。皆さんと一緒に、みゆきの里と御幸病院は今年も地域の皆様に貢献していきたいと思っております。

## 菜の花と帆立の白ワイン蒸し

## みゆきのの広場

<材料> 4人前  
(38kcal / 1人前) 塩分 / 0.8g

- 菜の花……………200g
- 帆立貝柱……………4個
- 白ワイン……………15cc  
(貝柱にもみ込む)
- 片栗粉……………5g
- にんにく……………2片
- サラダ油……………10cc

- A
- 塩……………3g
- 柚子こしょう……………3g
- 白ワイン……………15cc

### ワンポイント

#### 菜の花

春の訪れを告げる緑黄色野菜で、独特のほろ苦さ、香りと彩りが特徴。カロテン、ビタミンC、B1 B2葉酸、カルシウム、鉄などのミネラル類を豊富に含み、特にビタミンCの含有量は野菜の中でもトップクラス。体の抵抗力を高め、風邪などを予防するほか、貧血の予防にも効果が。

苦みのある菜の花をにんにくや柚子胡椒で炒め白ワインで蒸すことで菜の花の苦みがおいしくいただけます。

#### 作り方>>

- 1 菜の花は半分に切りよく洗う。にんにくはスライスする。
- 2 帆立貝柱は横半分に切り、料理酒をもみこみ、片栗粉をまぶしておく。
- 3 フライパンにサラダ油とにんにくを入れて火にかける。
- 4 にんにくの香が立ってきたら帆立貝柱をソテーする。
- 5 帆立貝柱を裏返しにしたら菜の花を横に加えて全体を炒め、合わせたAの調味料を加えてふたをして蒸す。
- 6 全体を混ぜ合わせてワインが揮発してなくなって来たら出来上がり。

